報道資料

令和７年（２０２５年）４月１６日

～重症熱性血小板減少症候群（SFTS）患者の発生について～

○ 令和7年（2025年）4月10日、県内で、今年初めての重症熱性血小板減少症候群（Severe Fever with Thrombocytopenia Syndrome：以下「SFTS」という。）の患者が確認されました。（全国では、今年4件（4月16日現在）が報告されています。）
届出対象となった平成25年3月以降の県内の発生は累計で51件です。

○ SFTSは、SFTSウイルスを保有するマダニに咬まれることで感染するといわれ、感染予防策としては**マダニに咬まれないようにすること**が重要です。

○ **主に春から12月頃までは、マダニの活動時期です**。森林や草地などマダニが多く生息する場所に入る場合には、**長袖、長ズボンを着用する**など**マダニに咬まれないよう十分な対策**を講じて下さい。また袖やズボンの裾に隙間ができないよう、できるだけ**肌の露出を少なくする**よう注意してください。

○ 屋外活動後は、入浴などを行い、**マダニに刺されていないか確認**してください。

＜患者の概要＞

（１） 患者
女性（７０歳代）、天草市在住

（２） 職業
無職

（３） 症状
発熱、筋肉痛、血小板減少、白血球減少等

（４） 経過
普段から農作業をされており、ほぼ毎日自宅周辺の畑で作業されていた。
４月　１日頃：発熱、食欲低下が出現し、天草保健所管内のＡ医療機関を受診。
４月　９日　：熊本市内のＢ医療機関を受診、入院。
４月１０日　：Ｂ医療機関でダニ媒介感染症を疑い、熊本市環境総合センターで検査を実施、ＳＦＴＳであることを確認

（裏面あり）

参考

■重症熱性血小板減少症候群（ＳＦＴＳ）とは

・重症熱性血小板減少症候群（ＳＦＴＳ）は、マダニに咬まれることで感染し、６～１４日の潜伏期間を経て発症し、発熱、消化器症状、リンパ節腫脹、出血症状などを伴います。致死率は６～３０％とされており、治療は対症療法となります。

※マダニは、衣類や寝具に発生するヒョウダニなどの家庭内に生息するダニと異なり、主に森林や草地に生息、全国的に分布しています。

■ダニ媒介性疾患の予防対策

・今回確認されたＳＦＴＳはダニ媒介性疾患の１つです。

・ダニ媒介性疾患の感染予防対策としては、ダニに咬まれないようにすることが重要であり、以下の点に注意してください。

① 森林や草地などマダニが多く生息する場所に入る場合には、長袖、長ズボン、足を完全に覆う靴などを着用し、肌の露出を少なくすること。ＤＥＥＴやイカリジン（虫よけ剤の成分）を含む虫よけスプレーも有効です。

② 屋外活動後はマダニに咬まれていないか確認すること。

③ 吸血中のマダニに気がついた場合、マダニに咬まれた後に発熱等の症状があった場合は、早めに医療機関を受診すること。

④ 野生動物や飼育している動物に注意すること。

■熊本県でのダニ媒介性疾患の年間発生件数（今回の事例を含む） R7.4.15 現在

年	H18～H30	R1	R2	R3	R4	R5	R6	R7	合計
ＳＦＴＳ※	13 件	2 件	6 件	9 件	5 件	7 件	8 件	**1 件**	**51 件**
日本紅斑熱	186 件	6 件	17 件	20 件	22 件	22 件	16 件	0 件	289 件
つつが虫病	125 件	11 件	14 件	8 件	5 件	19 件	9 件	0 件	191 件

※ＳＦＴＳは、平成２５年３月４日から届出対象疾病となった。

記録が残っている平成１８年以降の死亡例は、ＳＦＴＳ１０件、日本紅斑熱４件、つつが虫病０件です（別に、感染症死亡疑い者の遺体からのＳＦＴＳウイルス検出が平成２８年に１例あり）。

○日本紅斑熱

細菌であるリケッチアに感染することによって引き起こされる病気で、潜伏期間は２～８日、発熱、発疹、刺し口が主要三徴候であり、倦怠感、頭痛を伴います。抗菌薬を投与します。

○つつが虫病

ダニの仲間であるツツガムシに咬まれることで感染し、５～１４日の潜伏期間を経て、典型的な症例では、３９℃以上の高熱を伴って発症し、その後数日で体幹部を中心に発疹がみられる。また、患者の多くが倦怠感、頭痛を伴います。治療法は、抗菌薬の投与です。

（お問い合わせ先）
健康危機管理課　感染症対策班　担当：松本、徳永
電話：096－333－2240（直通）（内線 33154）